

## 十一．赤穂義士・萱野三平の霊が光國寺、新福寺に眠る

萱野七郎左衛門の一子は赤穂義士・萱野三平で、三平は大嶋出羽守の推挙で浅野家へ士官しました。主君内匠頭が江戸城で吉良上野介に刃傷に及びました。三平は急報の使者として、赤穂へその変事を伝えました。三平も同志と主君の仇討ちの盟約をかわしましたが、父七郎左衛門は大嶋家への遠慮もあって、同志との盟約をどうしても許しませんでした。三平は忠と孝との板ばさみにあい、「晴ゆくや 日頃心の 花曇」という辞世の句を残し、箕面芝村の自宅で自刃して果てました。

大嶋家の菩提寺新福寺には三平の墓、父・七郎左衛門、兄、叔父四基の墓があります。また、光國寺には三平自刃の短刀、手槍と三平の墓、三平の碑（写真）があります。これは光國寺の元禄時代の住職であった乗甫に三平の姉が嫁いでいたからだという。



光國寺 萱野三平の碑